

- 国産卵白のほとんどが液卵として流通、輸入卵白のほとんどが粉卵として流通。
- 同じ卵白でも液卵と粉卵で性質が大きく異なり、用途によって棲み分けがなされている。

＜国内流通＞

国産品
約5～6割
(液卵・凍結卵)



輸入品
約4～5割
(粉卵)



※国産の粉卵と輸入の液卵・凍結卵は国内では、ほとんど流通していない。

出典：業界聞き取りにより食肉鶏卵課推計

＜用途＞

液卵：かまぼこ等のつなぎ原料、菓子、パンなど



粉卵：ハム・ソーセージのつなぎ原料、即席乾燥麺など



＜形態別の性質＞

＜液卵の優位性＞

起泡性：気泡を含み泡立ちやすくさせる卵白の性質。
この性質によりスポンジ生地等がふっくら仕上がる。スポンジケーキやメレンゲは、この性質を利用。

凝固性：熱を加えることで、たんぱく質がかたまる性質。
目玉焼きや茶碗蒸しは、この性質を利用。

風味：粉卵にした場合、乾燥臭が発生し風味が低下。



液卵



粉卵



＜粉卵の優位性＞

結着性：原料を繋ぎ合わせる性質。

その他、保存性、輸送コスト等に優れる。



液卵



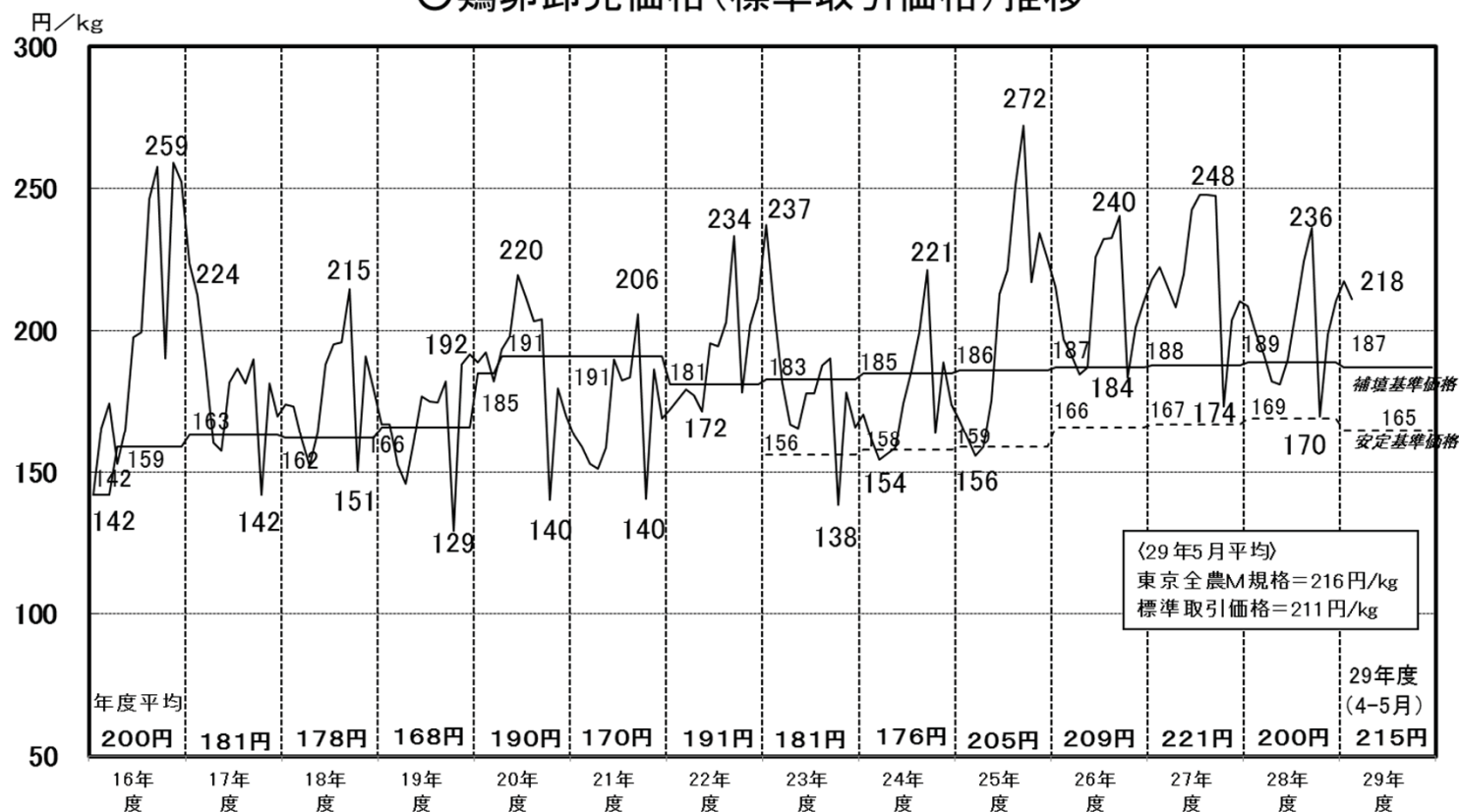
粉卵



鶏卵の価格動向

- 鶏卵の卸売価格は、わずかな生産量の変動が大幅な価格変動につながりやすい傾向にあり、季節的な変動のほか5～6年を周期とするエッグサイクルが存在する。
- 23年の東日本大震災の発生により一時的に飼料供給が滞ったこと等から供給が減少し、卸売価格が上昇。その後、供給が回復したことから価格は概ね平年並みで推移した。
- 24年度は、年度当初から低価格で推移したが、需要の回復等により、10月以降前年を上回って推移した。
- 25年度は、標準取引価格(日毎)が安定基準価格を下回ったため、成鶏更新・空舎延長事業が発動した。8月以降、猛暑の影響等による供給減少等で上昇し、12月には272円/kgとなり、例年に比べて高水準で推移した。
- 27年度は、前年度に引き続き需要が旺盛なこと等により、更に高水準で推移。
- 28年度は、生産量が増加したこと等により、夏以降の価格は、卵価が高水準にあった過去2カ年度からは下回って推移したが、29年1月以降は堅調に推移している。

○鶏卵卸売価格(標準取引価格)推移

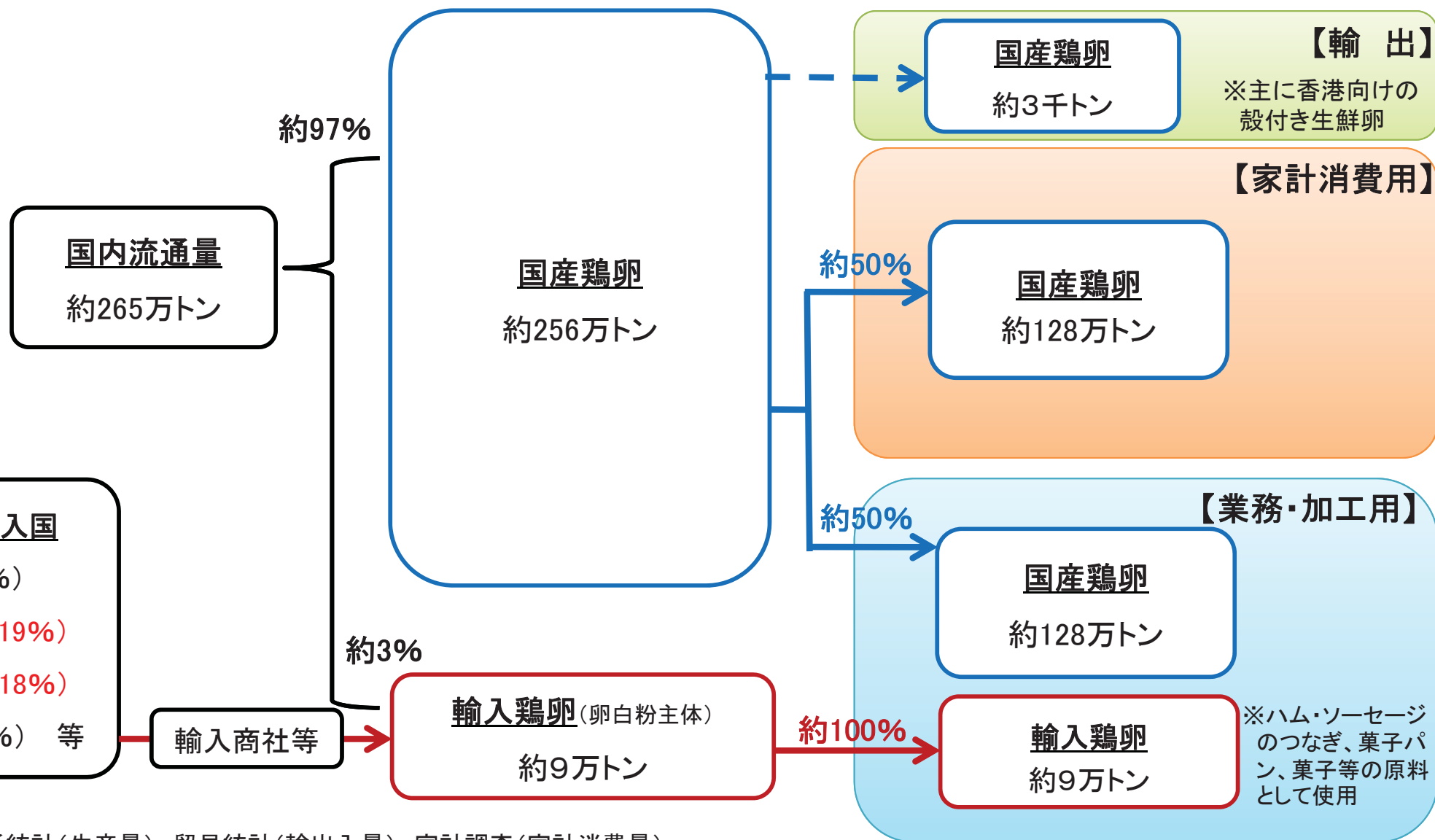


資料: JA全農調べ

注: 標準取引価格は、東京・大阪の規格卵の加重平均である。 112

鶏卵の流通

- 鶏卵の国内流通量は、約265万トンで、うち国産鶏卵が約256万トン、輸入鶏卵が約9万トン。
- 国産鶏卵は家計消費用と業務・加工用がほぼ1:1の比率で使用されるが、一方で、輸入鶏卵は業務・加工用として利用される。

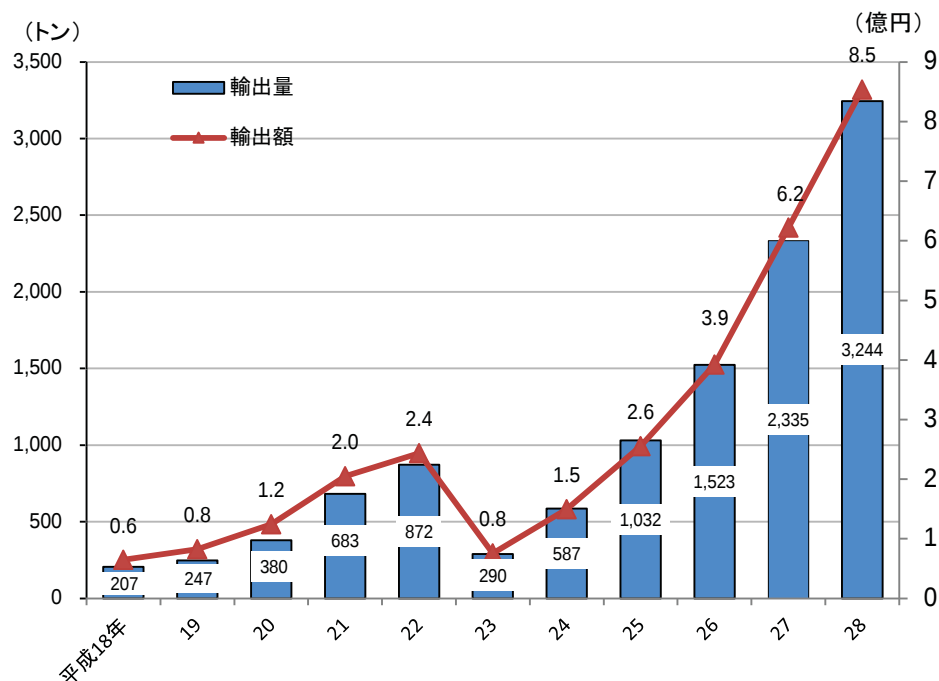


国産鶏卵の輸出について

- 高級食材としての需要を中心に、殻付き鶏卵の輸出は増加傾向で推移。輸出先は、輸送距離や輸出先国との衛生条件等の制約から、香港を始めとするアジアが中心。
- 平成23年は、高病原性鳥インフルエンザの発生(平成22年11月)等の影響により輸出量は減少したが、平成24年以降は、増加傾向で推移。
- 平成31年に輸出額26億円(10,000トン相当)を目標として設定。

日本産殻付き鶏卵の輸出実績

対前年比
数量:138%
金額:137%



資料:貿易統計

EU加盟国への輸出実績等

殻付き鶏卵	衛生条件	関税率	H28年実績	
			輸出量 トン	輸出額 百万円
EU加盟国計	協議中	16.7～142.3 EUR/100 kg	—	—
(参考) 香港	あり	0%	3,223 (前年比38%増)	839 (前年比36%増)
全世界			3,244 (前年比38%増)	854 (前年比37%増)

29年度の鶏卵生産者経営安定対策について

- 鶏卵価格が低落した場合に価格差補填を行うとともに、更に低落した場合、成鶏の更新に当たって長期の空舎期間を設け、需給改善を推進することにより、鶏卵生産者の経営と鶏卵価格の安定を図る。

1. 鶏卵価格差補填事業

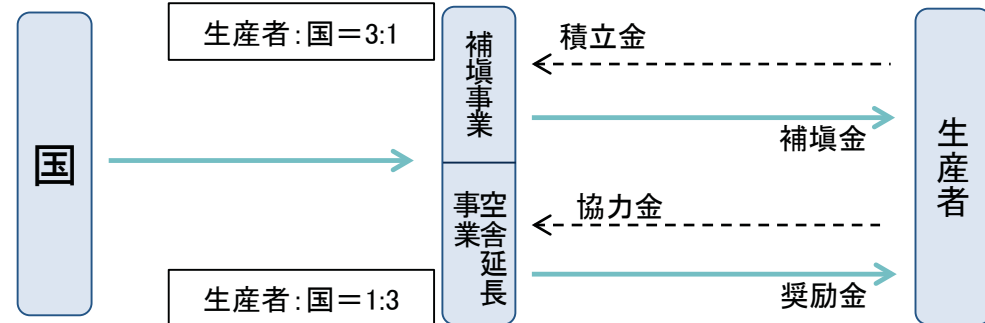
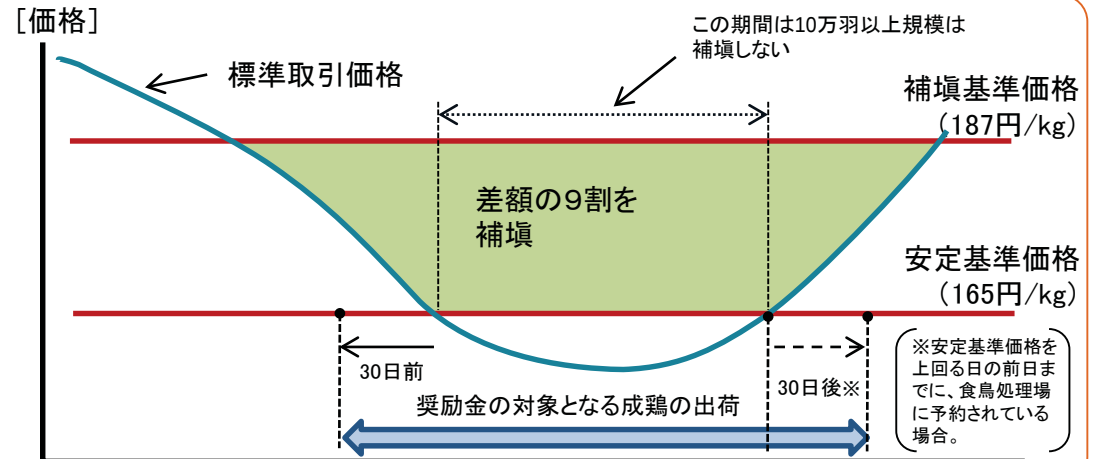
鶏卵の標準取引価格（月毎）が補填基準価格を下回った場合、その差額（補填基準価格と安定基準価格の差額を上限とする。）の9割を補填する。

〔2. の事業への協力金の拠出が要件〕

2. 成鶏更新・空舎延長事業

鶏卵の標準取引価格（日毎）が安定基準価格を下回る日の30日前から、安定基準価格を上回る日の前日までに、更新のために成鶏を出荷し、その後60日以上空舎期間を設ける場合に奨励金（210円/羽以内）。ただし、小規模生産者（10万羽未満）は270円/羽以内）を交付する。

【29年度予算額:49億円】



事業実績額の推移

【単位:百万円】

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
事業実績額	12,890	17,152	16,262	787	2,061	4,877
(うち国費分)	(3,219)	(5,029)	(4,731)	(198)	(515)	(1,219)

鶏 肉

- 鶏肉は、国内生産量約154万トン、輸入量約55万トンであり、国内供給量に占める輸入の割合は約26%。
- 鶏肉輸入量の9割以上を骨なし鶏肉が占めており(主な輸入先国はブラジル、米国、タイ)、残りを丸どり及び骨付きもも肉が占めている。なお、EUからの輸入はわずか0.1%であり、丸どり及び骨付きもも肉が主体。

【生産量】

国内生産量 (2016年)	主な生産地 (出荷羽数ベース:2017年2月1日現在)		
1,545千トン (出荷羽数シェア)	鹿児島県 (20%)	宮崎県 (20%)	岩手県 (16%)

出典:食料需給表、畜産統計

注:国内生産量は、骨付き肉ベース、出荷量シェアはブロイラーのみ

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2016年)		
551千トン (輸入量シェア)	ブラジル (75%)	タイ (20%)	米国 (4%)

出典:貿易統計

注:輸入量は、鶏肉調製品を含まない。

【価格】

価格の推移(円/kg)					
年	2012	2013	2014	2015	2016
国内価格	382	424	463	496	453
国際価格	223	264	297	299	220

出典:食鳥市況情報(国内価格)、貿易統計(国際価格)

注1:国内価格は、もも・むね平均卸売価格(東京)

注2:国際価格は、全世界CIF価格

【国境措置】

関税率		国境措置の概要
一次税率 8.5~11.9%	二次税率 —	—

品目名	関税率	鶏肉輸入量に 占める割合 (2016年)
丸どり	11.9%	1.8%
骨付きもも肉	8.5%	3.4%
その他 (骨なし肉等)	11.9%	94.8%

肉用鶏の飼養動向について

- 飼養戸数は、小規模の飼養者層を中心に減少傾向で推移している。飼養羽数についても概ね減少傾向で推移してきたが、近年は概ね横ばいで、増減を繰り返して推移している。
- 1戸当たり平均の飼養羽数は拡大しており、特に出荷羽数50万羽以上の大規模層のシェアは、戸数、羽数ともに拡大傾向で推移している。

区 分 / 年	20	21	25	26	28	29
飼養戸数(戸)	2,456	2,392	2,420	2,380	2,360	2,310
(対前年増減率)	(▲4.9)	(▲2.6)	(—)	(▲1.7)	(▲0.8)	(▲2.1)
飼養羽数(千羽)	102,987	107,141	131,624	135,747	134,395	134,923
(対前年増減率)	(▲2.2)	(4.0)	(—)	(3.1)	(▲1.0)	(0.4)
出荷戸数(戸)	2,925	—	2,440	2,410	2,360	2,320
うち50万羽以上層(戸)	203	—	225	230	266	268
戸数シェア(%)	(6.9)	—	(9.2)	(9.5)	(11.3)	(11.6)
出荷羽数(千羽)	629,766	—	649,778	652,441	667,438	677,713
うち50万羽以上層(千羽)	225,436	—	270,778	270,971	294,138	296,577
羽数シェア(%)	(35.8)	—	(41.7)	(41.5)	(44.1)	(43.8)
一戸当たり平均 飼養羽数(千羽)	41.9	44.8	54.4	57	56.9	58.4
一戸当たり平均 出荷羽数(千羽)	215.3	—	266.3	270.7	282.8	292.1

資料：農林水産省「畜産物流通統計」、「畜産統計」(各年2月1日現在) 29年は速報値。

注1：21年までは畜産物流通統計、25年以降は畜産統計における調査となっており、21年以前の数値とは接続しない。

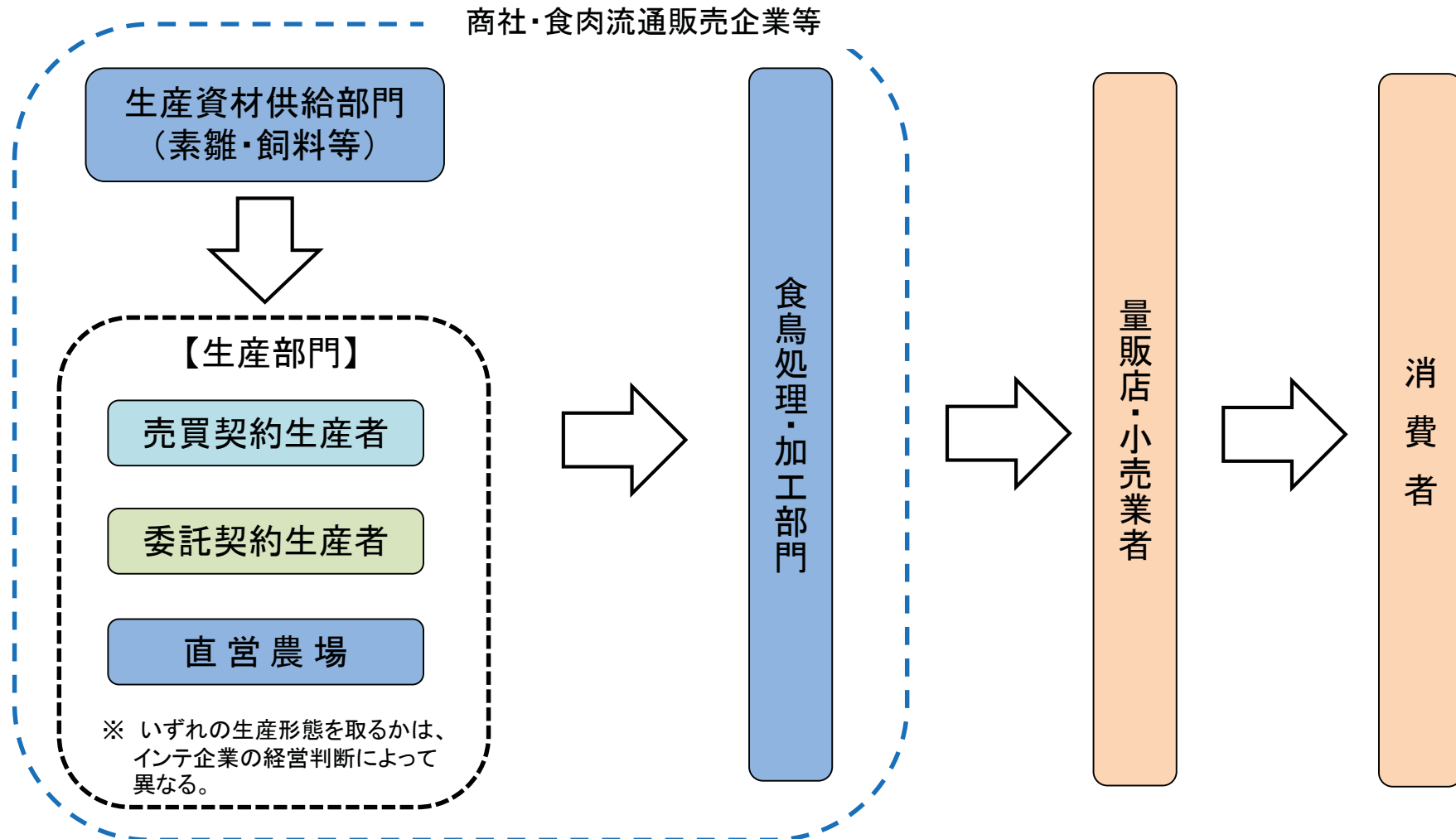
2：25年の数値は、年間出荷羽数3,000羽未満の飼養者を除く数値である。

3：27年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。また、28年の()内の数値は、26年との比較である。

ブロイラー産業のインテグレーション(垂直統合)について

- インテグレーション(垂直統合)とは、総合商社や食肉流通販売企業、農協等(いわゆるインテ企業)が、素雛、飼料等の生産資材をブロイラー生産農家に供給し、生産したブロイラーの処理・加工・流通・販売までを一貫して行う業態のことであり、現在の鶏肉生産のほとんどがインテグレーション化された生産構造の中で行われている。

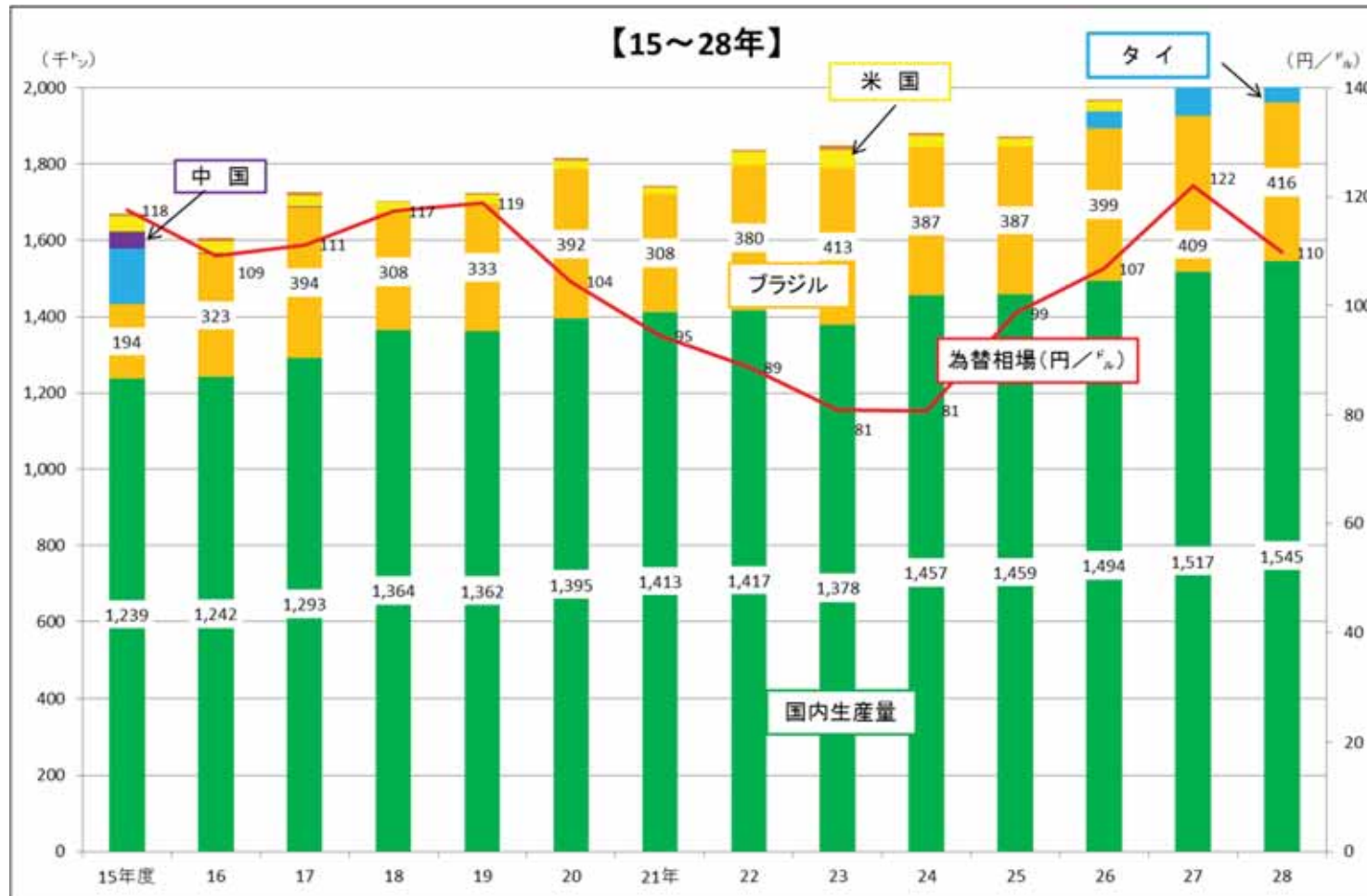
＜インテグレーション化の一例＞



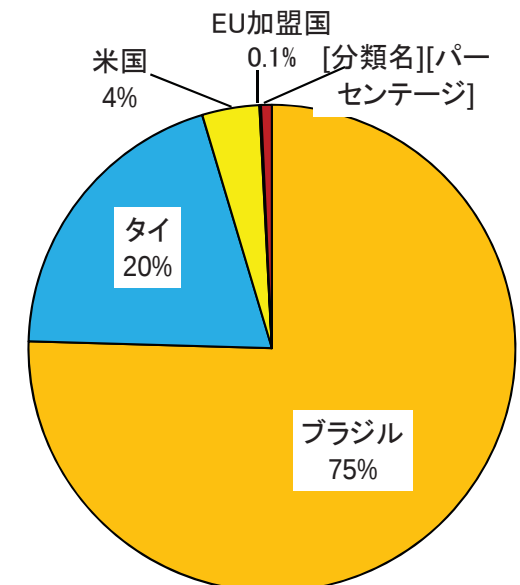
鶏肉の供給量について

- 近年の鶏肉輸入量は約40～50万トンで推移しており、国内供給量に占める輸入量の割合は約26%。
- 輸入の大宗をブラジルが占めている。
- 全鶏肉輸入量に占めるEU加盟国の割合は約0.1%である。

鶏肉の国内生産量及び輸入量の推移



国別輸入割合(平成28年)



【輸入量:551千トン】

資料:食料需給表(生産量)、貿易統計(輸入量)、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(為替相場)

注:平成21年以降は、生産量及び輸入量は年次ベース。なお、輸入量に鶏肉調製品は含まれない。

鶏肉のタリフライン別輸入実績(2016年)

HSコード	0207-11-000		0207-12-000		0207-13-200		0207-14-210		0207-14-220		総 計	
税 率	11.9%		11.9%		11.9%		8.5%		11.9%			
品 名	丸 鶏 生鮮・冷蔵		丸 鶏 冷 凍		その他(骨なし肉等) 生鮮・冷蔵		骨付きもも肉 冷 凍		その他(骨なし肉等) 冷 凍			
国 名	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %	輸入量 トン	比率 %
ブラジル			7,452	73.2			24	0.1	408,351	78.2	415,827	75.4
タイ			335	3.3			356	1.9	109,216	20.9	109,906	19.9
米国			36	0.4			17,722	95.7	3,196	0.6	20,953	3.8
オーストラリア			2,019	19.8							2,019	0.4
フィリピン			70	0.7			149	0.8	1,075	0.2	1,295	0.2
アルゼンチン			206	2.0					239	0.05	445	0.1
デンマーク							259	1.4			259	0.05
ポーランド									172	0.03	172	0.03
チリ									102	0.02	102	0.02
ベルギー									91	0.02	91	0.02
フランス			46	0.4							46	0.01
中国									41	0.01	41	0.01
スペイン	6	100.0	8	0.1	0.4	100.0	2	0.01			17	0.003
カナダ			5	0.05							5	0.001
ニュージーランド							1	0.01	3	0.0005	4	0.001
EU総計	6	100.0	54	0.5	0.4	100.0	261	1.4	263	0.05	584	0.1
総 計	6	100.0	10,177	100.0	0.4	100.0	18,512	100.0	522,485	100.0	551,181	100.0

出典: 貿易統計

輸入鶏肉の主な用途について

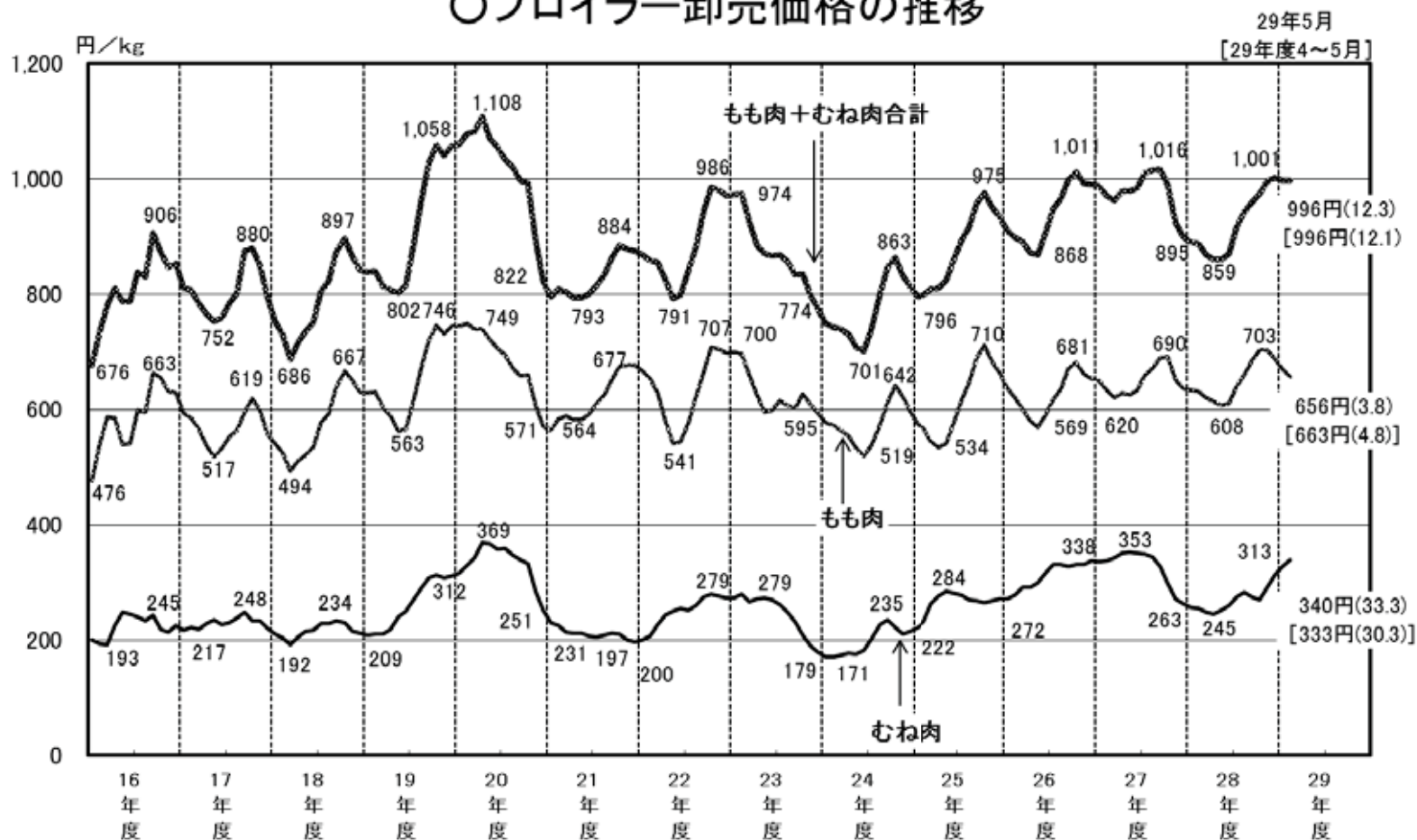
HSコード	関税率	品目名	主な用途	輸入量 EU加盟国 シェア	CIF価格	品目イメージ
0207-12-000	11.9%	冷凍丸どり	ローストチキン等 業務・加工用として 丸鶏のまま利用される ことが多い。	約1万トン (0.5%)	229円/kg	
0207-14-210	8.5%	冷凍骨付き肉	ローストチキン、 フライドチキン等 業務・加工用として 骨付きもも肉のまま 利用されることが多い。	約2万トン (1%)	175円/kg	
0207-14-220	11.9%	冷凍骨なし肉	唐揚げ、焼き鳥等 業務・加工用として 利用されることが多い。	約52万トン (0.05%)	221円/kg	

資料:「貿易統計」(2016年)

鶏肉の価格動向について

- もも肉価格は、通常、夏場の不需要期に向けて価格が低下し、年末の需要期に向けて価格が上昇するサイクルで推移。
23年度の後半からは、震災後の輸入増加により軟調に推移したものの、25年度後半には回復基調に転じ、それ以降は堅調な需要に支えられ、比較的高水準に推移している。
- むね肉価格は、24年度の後半からは加工向け需要の伸び等により堅調に推移してたが、27年度の秋以降、輸入鶏肉の価格の低下等により軟調に推移。29年2月以降は、競合するブラジル産輸入鶏肉の価格の上昇もあり、高い水準で推移している。

○ブロイラー卸売価格の推移



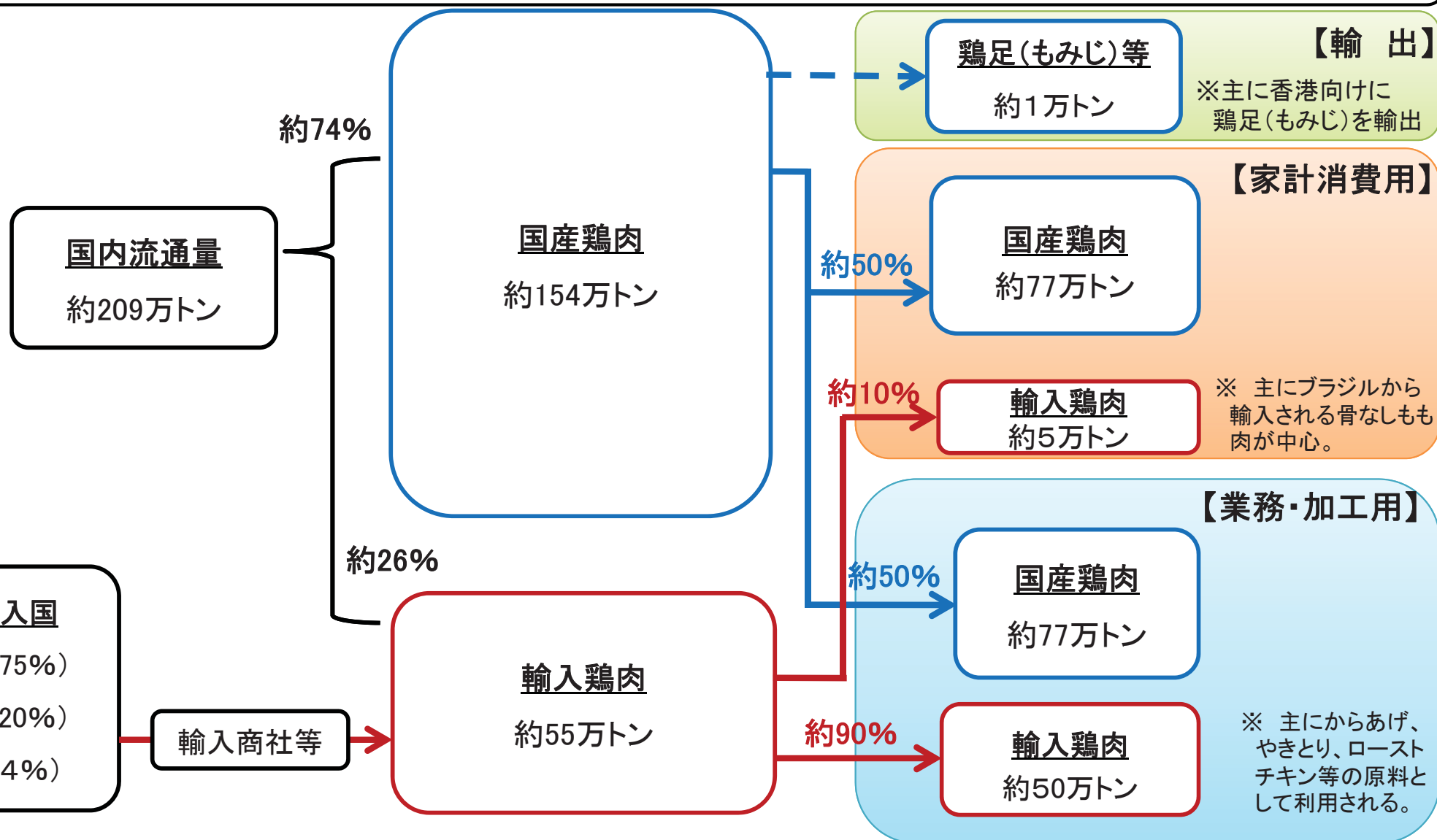
資料：農林水産省「食鳥市況情報(東京)」

注1：もも肉+むね肉合計は、もも肉1kg卸売価格とむね肉1kg卸売価格の単純合計

注2：()内は、対前年同月騰落率

鶏肉の流通

- 鶏肉の国内流通量は、約209万トンで、うち国産鶏肉が約154万トン、輸入鶏肉が約55万トン。
- 国産鶏肉は家計消費と業務・加工用がほぼ1:1の比率で使用されるが、一方で、輸入鶏肉はそのほとんどが業務・加工用として利用される。

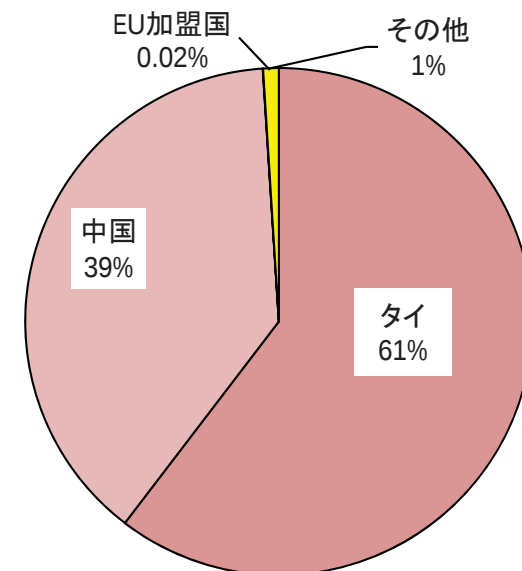


鶏肉調製品の輸入量について

- 鶏肉調製品（からあげ、やきとり等）の輸入量は、平成16年1月のタイ及び中国での鳥インフルエンザの発生以降、増加傾向で推移している。
- タイ及び中国が輸入シェアのほぼ半数ずつを占めており、EU加盟国からの輸入はごくわずか。



国別鶏肉調製品
輸入割合(平成28年)



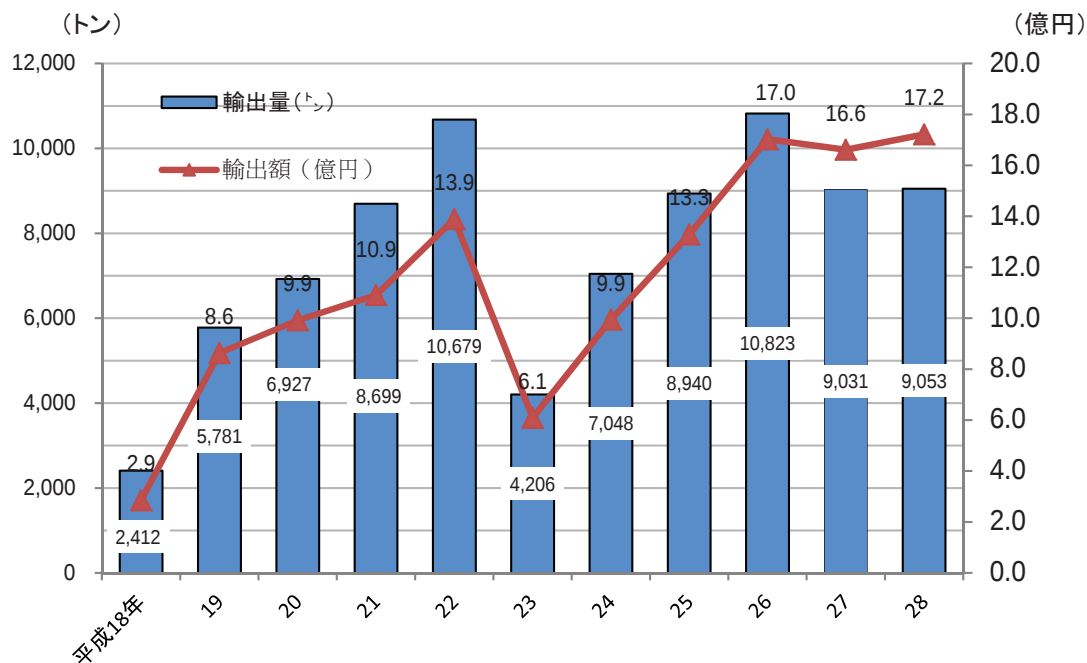
【輸入量:422千トン】

国産鶏肉等の輸出について

- 国内では需要の少ないもみじ(鶏足)を中心に香港、カンボジア、ベトナム等へ輸出。
- 平成23年は、高病原性鳥インフルエンザの発生(平成22年11月)等の影響により輸出量は減少したが、平成24年以降は、増加傾向で推移。
- 平成31年に輸出額35億円(14,000トン相当)を目標として設定。

日本産鶏肉等の輸出実績

対前年比
数量:100%
金額:104%



資料:貿易統計

EU加盟国への輸出実績等

鶏肉	衛生条件	関税率	H28年実績	
			輸出量 トン	輸出額 百万円
EU加盟国計	協議中	6.4%、18.7~ 102.4 EUR/100 kg	—	—
(参考)香港	あり	0%	6,188 (前年比4%減)	1,169 (前年比2%増)
全世界			9,053 (前年比0.2%増)	1,722 (前年比4%増)

天然はちみつ

- 天然はちみつは、国内生産量が約3千トン、輸入量が約5万トンで、国内消費量に占める輸入の割合は9割を超える。
- 輸入量の約7割を中国からの安価なはちみつが占め、残りの3割をアメリカ大陸やヨーロッパ等からの比較的高価なはちみつが占めている。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2015年)		
2,865 ^{トン} (生産量シェア)	長野県 (11%)	北海道 (10%)	秋田県 (8%)

出典:畜産振興課調べ

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2016年)		
48,445 ^{トン} (輸入量シェア)	中国 (73%)	アルゼンチン (9%)	カナダ (6%)

出典:貿易統計

【価格】

価格の推移(円/kg)					
年	2012	2013	2014	2015	2016
国内価格	1,000円/kg～2,300円/kg				
国際価格	228	291	336	393	354

出典:畜産振興課調べ(国内価格)、貿易統計(国際価格)

注1:国内価格は、(一社)日本養蜂協会からの聞き取り

注2:国際価格は、全世界CIF価格

【国境措置】

関税率		国境措置の概要
一次税率 25.5%	二次税率 —	—

【国別輸入量(2016年)】

国名	輸入量	比率
	トン	%
中国	35,466	73.2
アルゼンチン	4,201	8.7
カナダ	3,054	6.3
ハンガリー	1,195	2.5
ミャンマー	1,135	2.3
ニュージーランド	866	1.8
ルーマニア	465	1.0
メキシコ	414	0.9
スペイン	221	0.5
ベトナム	158	0.3
ドイツ	158	0.3
オーストラリア	157	0.3
バングラデシュ	125	0.3
ブルガリア	108	0.2
イタリア	102	0.2
その他	621	1.3
EU総計	2,359	4.9
	48,445	100.0

蜜蜂の飼育動向

○ 蜜蜂の飼育戸数及び蜂群数は、平成22年～27年まで増加傾向で推移。(平成25年以降、届出義務を趣味養蜂に拡大。)平成28年は前年と比較し減少。

○ 平成28年の蜜蜂の飼育戸数は9,452戸、蜂群数(※)は22.4千群。
(※ 蜂群数は1月1日時点の調査で、春から増殖するため、夏季には2倍以上になる。)

○ 蜜源植物の植栽面積は、各植物とも減少傾向で平成27年の植栽面積は、135.2千ヘクタール。

蜜蜂飼育戸数、蜂群数の推移

(単位:戸、千群、群/戸、%) ※

区 分	S60年	H7年	H17年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
飼育戸数	9,499	7,235	4,790	5,353	5,790	5,934	8,312	9,306	9,567	9,452
蜂群数	285	214	178	175	184	184	204	210	213	212
平均蜂群数	30.0	29.6	34.4	32.8	31.9	31.1	24.5	22.5	22.3	22.4

出典:畜産振興課調べ

注:H25年以降は改正後の養蜂振興法に基づく届出数。

各年とも1月1日現在

蜜蜂飼育戸数等の上位10県(H28年)

(単位:戸、千群、%)

区 分	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
飼育戸数	長野	静岡	和歌山	岐阜	愛媛	愛知	岡山	福島	埼玉	神奈川
戸	617	473	451	384	373	355	345	339	324	315
比率(%)	6.5	5.0	4.8	4.1	3.9	3.8	3.7	3.6	3.4	3.3
蜂群数	長野	和歌山	熊本	沖縄	福岡	鹿児島	福島	埼玉	北海道	岐阜
千群	16.1	12.7	11.2	9.5	9.3	7.7	7.4	7.3	7.1	6.2
比率(%)	7.6	6.0	5.3	4.5	4.4	3.6	3.5	3.4	3.4	2.9

出典:畜産振興課調べ

蜜源植物の植栽面積の推移

(単位:千ヘクタール、%)

区 分	S60年	H7年	H17年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
みかん	143.7	87.6	62.1	52.8	52.4	51.3	43.8	39.4	34.9
れんげ	21.9	15.7	15.1	13.5	11.9	12.8	10.8	8.9	8.8
アカシア	7.6	8.5	8	7.1	9.3	8.6	7.5	7.9	6.2
りんご	45.2	35.5	29.6	6.3	23.8	23.4	22.1	21.5	21.2
その他	152.3	117.9	75.4	58.8	65.5	64.9	63.7	64.6	64.1
合 計	370.7	265.2	190.3	138.4	162.9	160.9	148	142.3	135.2

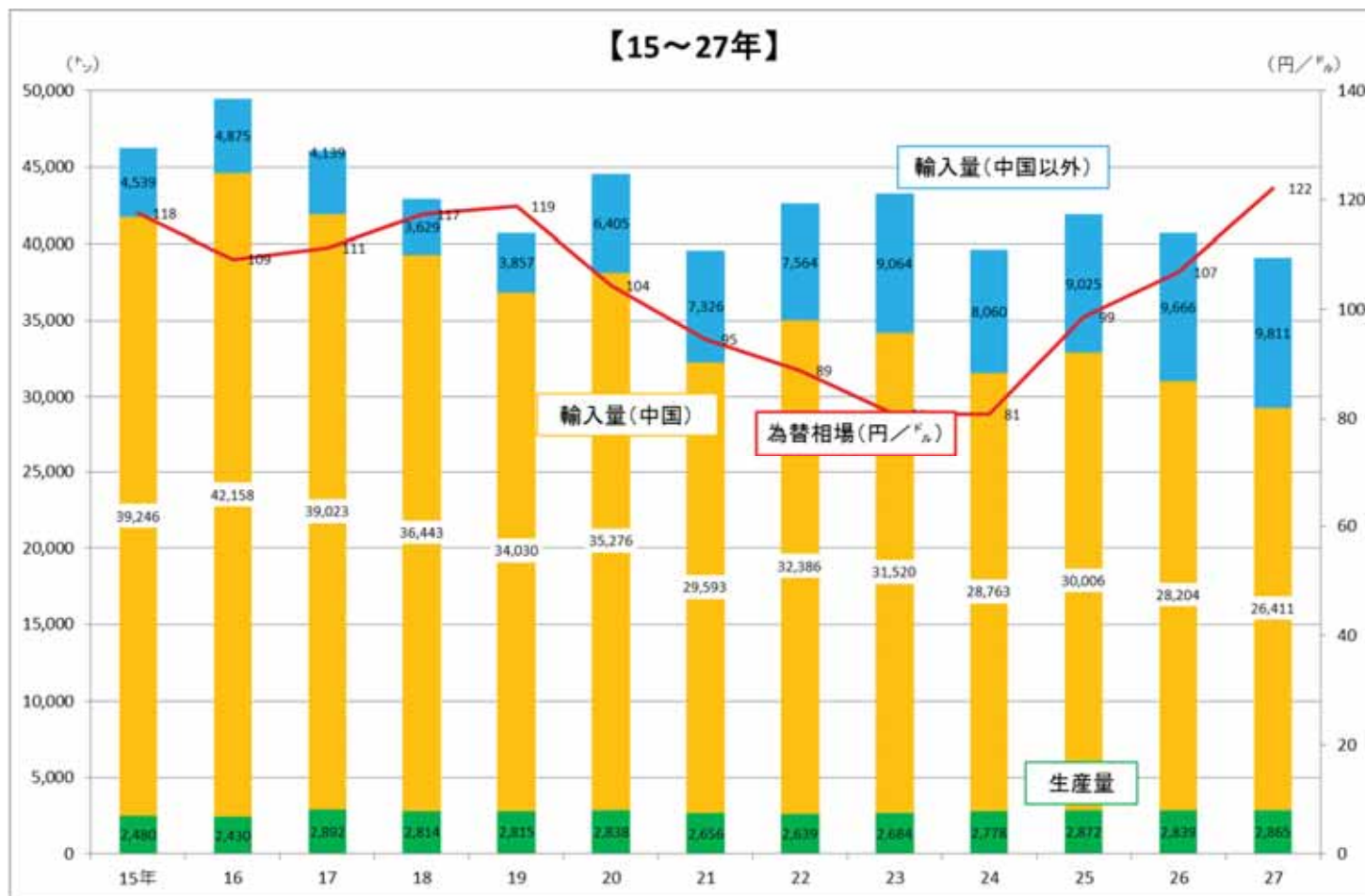
注:表中の数値は、各都道府県で把握しているものを集計。

なお、一部県の調査中止や調査再開もあり、数字の連続性はない。

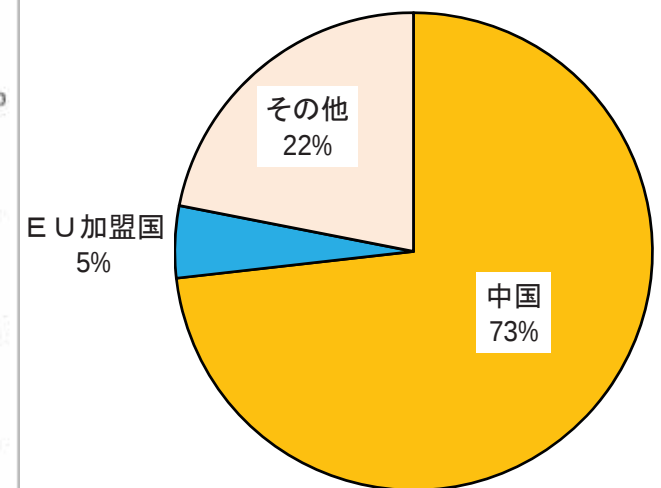
はちみつの供給量について

- 近年のはちみつ輸入量は約4万トン前後で推移しており、国内消費量に占める輸入量の割合は9割を超える。
 - 中国からの輸入が大宗を占めているが、近年、全輸入量に占める中国産の割合は減少傾向にあり、中国以外の国からの品質の高いはちみつの輸入量が増加傾向で推移している。
- こうした中で、国産はちみつには一定の需要が存在するため、国内生産量は約3千トンで安定的に推移している。

はちみつの生産量と輸入量の推移



国別輸入割合(平成28年)



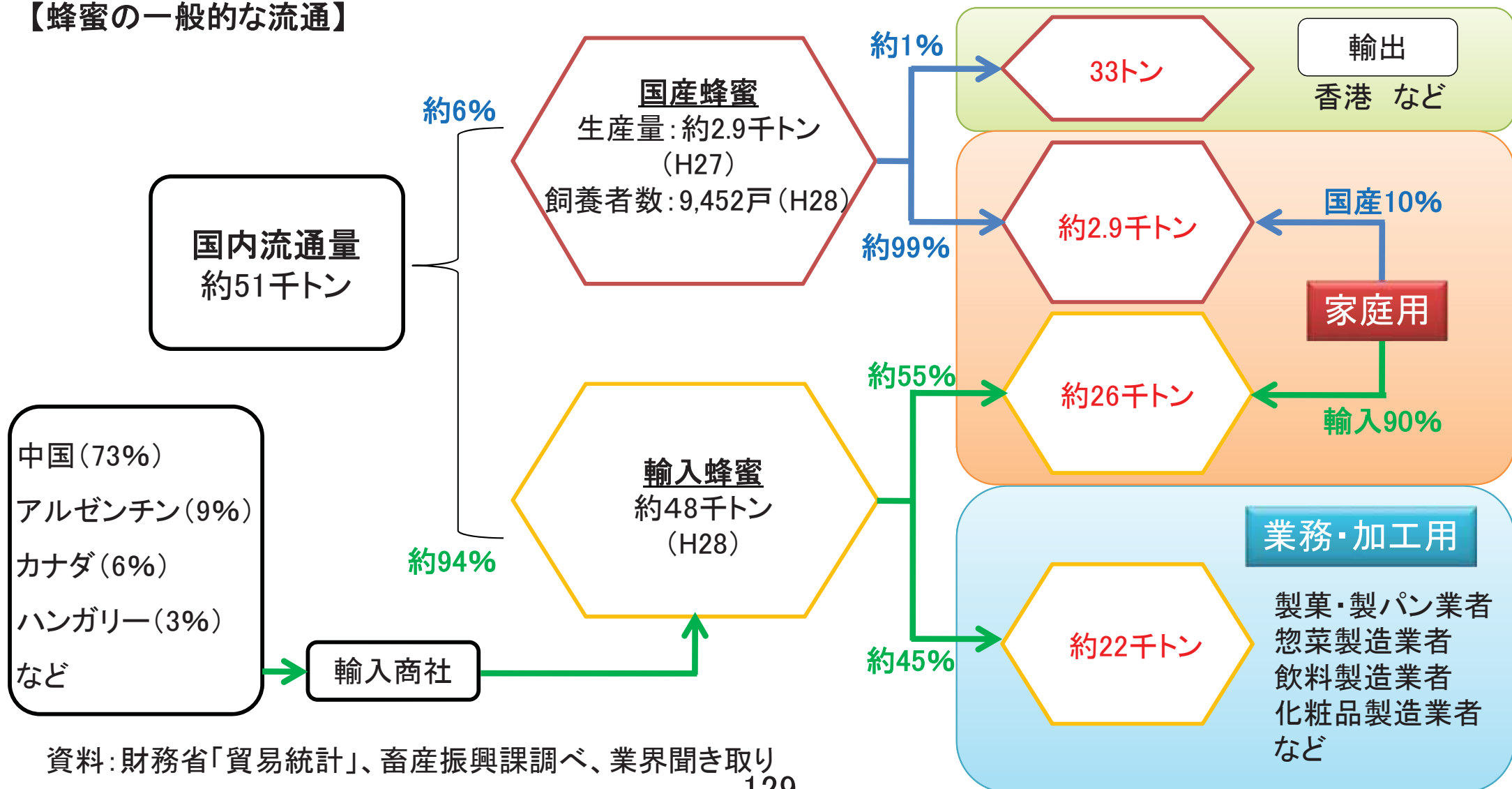
【輸入量:48千トン】

資料:畜産振興課調べ(生産量)、貿易統計(輸入量)、三菱UFJリサーチ&コンサルティング(為替相場)

蜂蜜の流通

- 蜂蜜の国内流通量は、約51千トンで、うち国産が約2.9千トン、輸入が約48千トン。輸入はちみつの73%は中国産。
- 国産蜂蜜のほぼ全てが家庭用仕向け。輸入蜂蜜は約55%が家庭用、約45%が業務・加工用仕向け(製菓・製パン、化粧品等)。

【蜂蜜の一般的な流通】



蜂蜜の種類、色、価格

- 蜂蜜の種類は、蜜源の花により分類され、アカシアの花の蜜からはアカシア蜜、レンゲの花の蜜からはレンゲ蜜が取れる。
- 蜂蜜の色は、蜜源の花の種類によって淡黄色から黒褐色まで様々。
- 価格については、国産、輸入では生産コストの違いにより、中国、東南アジア産蜂蜜と国産には相当程度の価格差が存在。

種類・色

いろいろなはちみつがあります



ソバ 百花 トチ レンゲ アカシア

トチの花



レンゲの花



アカシアの花



価格

・国産蜂蜜卸売価格

1,000円/kg～2,300円/kg

※一般社団法人日本養蜂協会聞き取り

・外国産蜂蜜価格

平成28年	数量(t)	輸入額(千円)	CIF価格 (円/kg)	課税後 (円/kg)
合 計	48,445	17,141,752	354	444
中国	35,466	8,823,306	249	312
アルゼンチン	4,201	1,287,442	306	385
カナダ	3,054	1,282,505	420	527
ハンガリー	1,195	771,885	646	810
ミャンマー	1,135	254,563	224	282
ニュージーランド	866	3,226,351	3,727	4,677

出典：財務省「貿易統計」 ※天然蜂蜜の関税率は25.5%

軽種馬

- 軽種馬については、北海道が全国生産頭数の98%(うち日高地方で約8割)を占めるなど、軽種馬生産以外に有力な転換作目の少ない当該地域の農業において重要な地位を占めており、このような軽種馬生産者に対する影響を緩和する必要があることから競走馬とその妊娠馬について、関税(1頭あたり340万円)を課すことにより、安価な輸入馬の無秩序な流入を防いでいる。

【生産量】

国内生産量	主な生産地(2016年産)		
6,903頭 (生産量シェア:速報値)	北海道 (97.8%)	青森県 (1.2%)	熊本県 (0.3%)

出典:軽種馬統計(日本軽種馬協会)

【輸入量】

輸入量	主な輸入先国(2016年度)		
171頭 (輸入量シェア)	米国 (57.9%)	英国 (32.7%)	オーストラリア (4.1%)

出典:貿易統計(財務省)

【価格】

価格の推移(万円/頭)					
年	2012	2013	2014	2015	2016
国内価格	796	853	835	910	1,000
国際価格	879	1,213	1,493	1,535	1,426

出典:国内価格は、国内せり市場における1歳馬市場平均価格。
国際価格は、タタソールズ社(英国)による1歳馬市場平均価格。

【国境措置】

関税率(〔〕は従価税換算値)		国境措置の概要
一次税率 340万円/頭 〔70%(妊娠馬)、94%(競走馬)]※	二次税率 —	—

(※WTO農業交渉上の換算値)

加工食品について

○ EUの主な農産品輸出をみると、上位50品目中12品目が、チョコレート菓子、砂糖菓子等の加工食品となっている。

EUの主な農産品の対世界輸出実績(2013年)
(上位50品目中の加工食品)(※EU域内貿易を含む。)

順位	品目	主な品目の 我が国の関税率	輸出額 (億円) (ドル/円=115)	シェア (%)
5	チョコレート菓子	10% (チョコレート菓子)	19,559	3.2
7	ペーストリー	15% (加糖ビスケット)	16,950	2.8
16	コーヒー	12% (コーヒー(炒ったもの))	6,479	1.1
17	オリーブ油	無税	6,412	1.1
19	砂糖菓子	25% (キャンデー)	5,818	1.0
20	乳幼児用食品	24% (乳幼児食品(加糖))	5,672	1.0
23	なたね油	13.2円/kg (なたね油(粗油その他))	5,191	0.9
36	ひまわり油	10.4円/kg (ひまわり油(粗油その他))	3,765	0.6
40	シリアル	11.5% (朝食用シリアル)	3,565	0.6
41	コーヒー(抽出物)	24% (コーヒーエキス(加糖))	3,403	0.6
43	マカロニ	30円/kg (スパゲティ、マカロニ)	3,368	0.6
44	ウエハース	18% (ワッフル・ウエハー)	3,344	0.5

EUからの主な農林水産品の輸入実績(2016年)
(上位50品目中の加工食品)

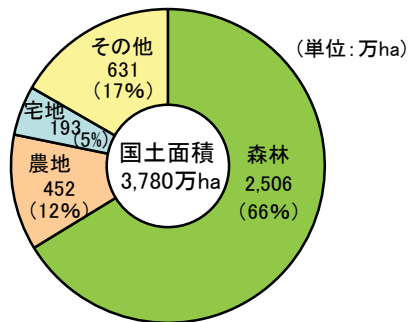
順位	品目	主な品目の 関税率	輸入金額 (億円)	輸入量
7	オリーブ油	無税	307	5.7万トン
11	チョコレート菓子	10% (チョコレート菓子)	150	1.1万トン
12	鉱水 炭酸水	3%	139	18.4万kl
14	スパゲッティ	30円/kg	90	6.7万トン
17	砂糖菓子	25% (キャンデー)	61	0.9万トン
29	ココア粉(無糖)	12%	32	0.7万トン
30	ワッフル・パイ・ケーキ	18% (ワッフル・ウエハー)	31	0.4万トン
31	コーヒー(炒ったもの)	12%	31	0.2万トン
34	クッキー・ビスケット・クラッカー	15% (加糖ビスケット)	28	0.5万トン
40	カカオ脂	無税	24	0.3万トン
46	香辛料	3% (こしょう(小売用))	16	0.2万トン
50	インスタントコーヒー	8.8%	15	0.08万トン

出典:財務省「日本貿易統計」

森林の状況

- 我が国は世界有数の森林国。森林面積は国土面積の3分の2にあたる約2,500万ha（人工林は約1,000万ha）。
- 森林資源は人工林を中心に蓄積が毎年約1億m³増加し、現在は約49億m³。
- 人工林の半数以上が10齢級以上の主伐期を迎え、資源を有効活用すると同時に、計画的に再造成することが必要な新たな段階。

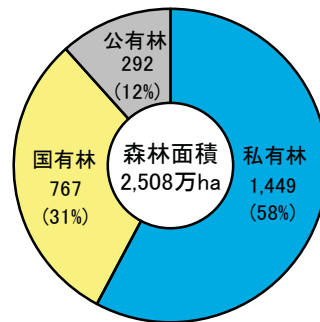
■ 国土面積と森林面積の内訳



資料：国土交通省「平成27年度土地に関する動向」（国土面積は平成26年の数値）

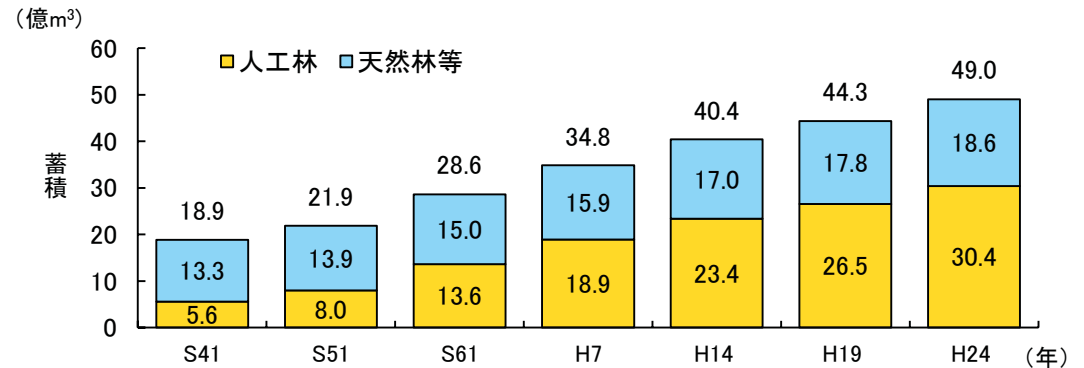
注1：計の不一致は、四捨五入による。

注2：林野庁「森林資源の現況」とは森林面積の調査手法及び時点が異なる。



資料：林野庁「森林資源の現況」（平成24年3月31日現在）

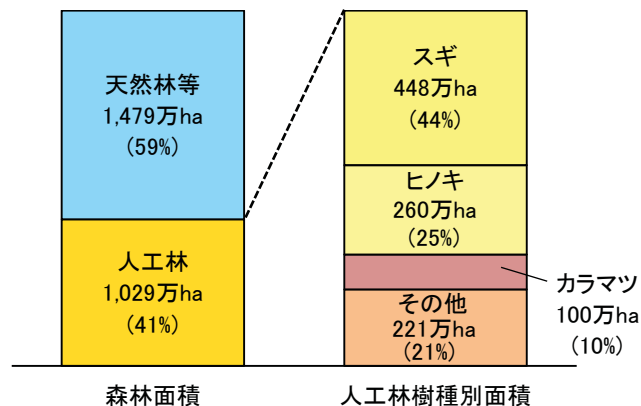
■ 我が国の森林蓄積の推移



資料：林野庁「森林資源の現況」（各年の3月31日現在の数値）

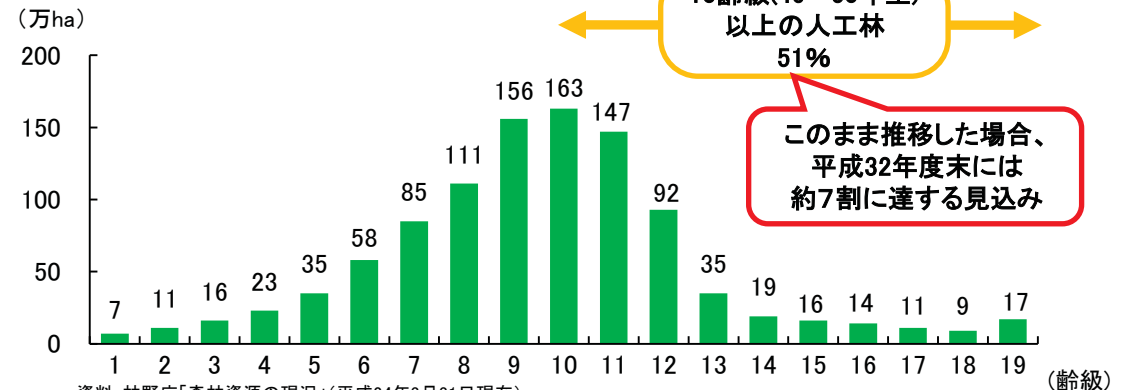
注：総数と内訳の計の不一致は、単位未満の四捨五入による。

■ 人工林樹種別面積



資料：林野庁「森林資源の現況」（平成24年3月31日現在）

■ 人工林の齢級別面積



資料：林野庁「森林資源の現況」（平成24年3月31日現在）

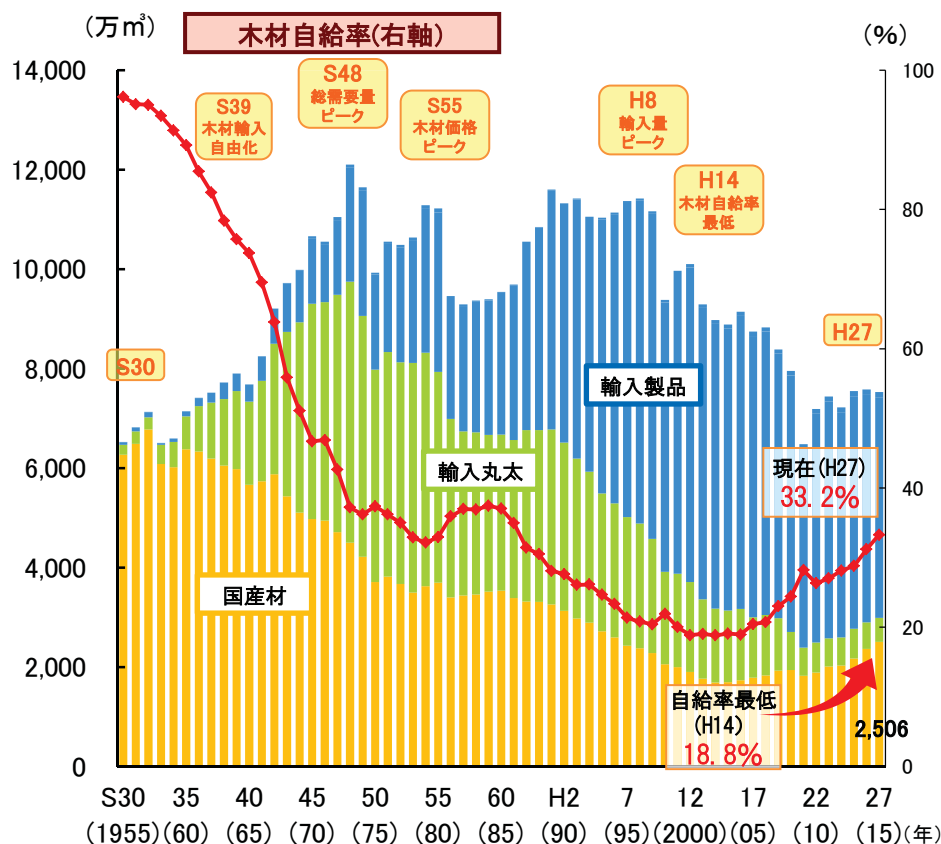
注1：齢級（人工林）は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を「1齢級」と数える。

注2：森林法第5条及び第7条2に基づく森林計画の対象となる森林の面積。

木材需給の動向

- 木材供給量は、住宅着工戸数の減少等を背景とした木材需要の減少により、平成8年以降は減少傾向。
- このうち木材輸入量は、平成8年をピークに減少傾向で推移する一方、国産材の供給量は、平成14年を底に増加傾向。木材自給率も、平成14年の18.8%を底に上昇傾向で推移し、平成27年は33.2%（しいたけ原木及び燃料材を除いた用材ベースでは30.8%）。
- 木材需要量のうち、平成27年は製材用が34%、合板用が13%、パルプ・チップ用が42%。合板では、輸入丸太の供給不安を背景に、国産材に対応した技術開発を進めた結果、国内生産における国産材利用の割合は79%に上昇。

■ 木材の供給量の推移



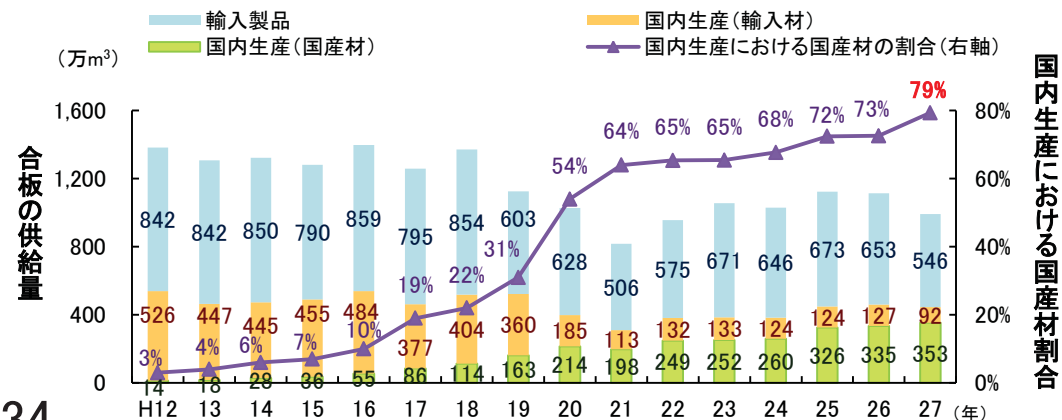
資料：林野庁「木材需給表」
注1：数値の合計値は、四捨五入のため計と一致しない場合がある。
注2：輸入製品には、輸入燃料材を含む。

■ 木材の需給構造（平成27年）

需要量 7,516万m³					
製材用材 2,536 (34%)		合板用材 991 (13%)		パルプ・チップ用材 3,178 (42%)	
その他 383 (5%)		燃料材 396 (5%)			
国産材 1,200 <47%>		外材 1,335 <53%>		国産材 520 <16%>	
丸太 388		製品 947		外材 2,658 <84%>	
		丸太 92		製品 2,658	
		丸太 0.3		その他 383 (5%)	
				燃料材 396 (5%)	
				しいたけ原木 32(0.4%)	

資料：林野庁「平成27年木材需給表」
注1：その他用材には、加工材、再生木材、構造用集成材等が含まれる。
注2：燃料材とは、木炭、薪、燃料用チップ及びペレットである。
注3：数値は丸太換算値。数値と割合それぞれの合計は四捨五入のため計と一致しない場合がある。また、< >内の数字は各種別需要量における割合。

■ 合板の供給量の推移

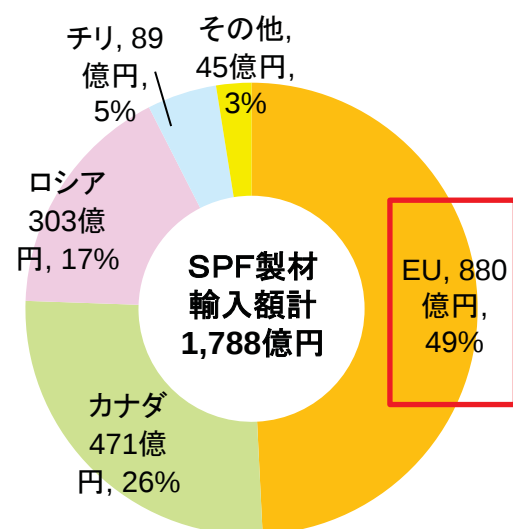


資料：林野庁「木材需給表」

我が国の主な林産物の輸入先国

○ EUは我が国のSPF製材、構造用集成材、パーティクル・ボード（PB）及びオリエンテッド・ストランド・ボード（OSB）の最大の輸入先国

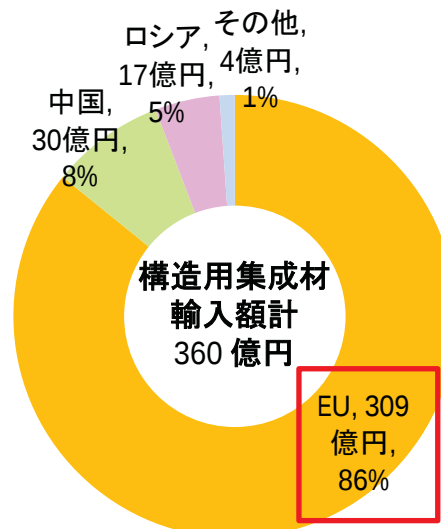
■輸入先国別シェア(金額ベース、2012～2014年の平均)



(関税率: 4.8%)



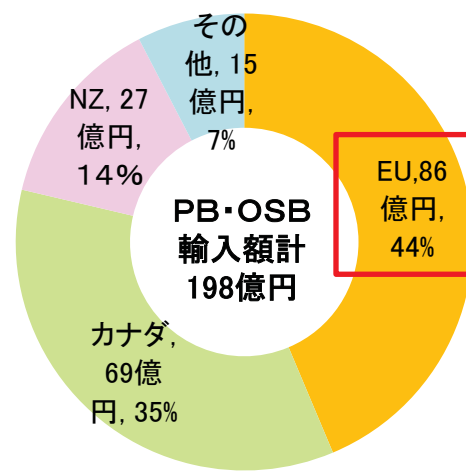
(SPF製材) トウヒ属、マツ属、モミ属 (Spruce, Pine, Fir) の製材



(関税率: 3.9%)



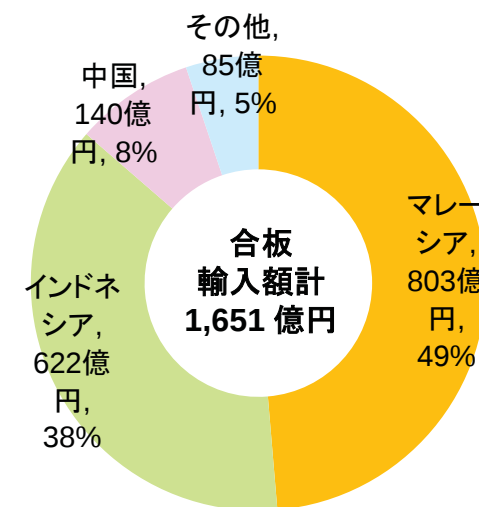
(集成材) 一定の寸法に加工されたひき板(ラミナ)を複数、繊維方向が平行になるよう集成接着した製品



(関税率: 5～6%)



(PB) 細かく切削した木材に接着剤を添加して熱圧縮した板製品
(OSB) 薄い木材の小片を何層にも重ねて作られた板製品



(関税率: 6～10%)



(合板) 丸太を薄くスライスした単板を繊維方向に交互に接着した板製品

主な木材製品の概要

木材製品	イメージ	主な用途	競合
SPF製材 〔 トウヒ属・マツ属・モミ属 (Spruce、Pine、Fir) の製材 〕		ラミナとして集成材の原材料	国産ラミナと競合
構造用集成材		木造軸組構法の柱材	国産構造用集成材 ムク人工乾燥材 と競合
合板		PB、OSBと同じ	} 板材として競合
OSB 〔 オリエンテッド・ストランド・ボード (Oriented Strand Board)。薄い木材の小片を何層にも重ねて作られたボードであり、住宅の屋根、壁、床の下地として使用される。構造用パネルとも呼ばれる。 〕		住宅・大規模木造建築物の 屋根、壁及び床の下地材	
PB 〔 パーティクル・ボード 〕		家具用 (組立家具、キャビネット等)、建築用 (床や壁などの下地材等)	
その他建築用木工品 (CLTを含む)		柱、梁、桁など、構造物の耐力部材	国産CLT

EUからの主な林産物の輸入状況

(単位：億円)

品目名	世界計	EU計	フィンランド	スウェーデン	オーストリア	ルーマニア	エストニア	ドイツ	ベルギー	ポーランド	フランス	スペイン
SPF製材	1,788	880	278	243	114	124						
構造用集成材	360	309	105	21	90	58	27	9				
パーティクルボード・ OSB	198	86			56			11	10	6		
加工木材	61	27	7	14			3				3	
くい及びはり	21	18	7		3	4	3					
その他建築用木工品 (CLTを含む)	675	17		16								
たる・おけ	23	11									2	6
造作用集成材	33	9	1		4	4						
針葉樹合板	59	4	2.6	1.3								
広葉樹合板	478	3	1.2					0.8		0.3		

注) 2012-2014年の平均を計上

主要品目の実行関税率の推移

- 我が国の林産物の関税は、これまで数次にわたる交渉等により、引き下げが行われている。
- 現在、丸太や製材等で無税となっている一方、製材の一部、合板、集成材等は関税を維持している。

品目名 [引下げ期間等]		自由化完了時 1964年	ケネディ ラウンド 1968～72年	東京ラウンド 1980～87年	MOSS合意 1987～88年	UR合意 1995～99年
丸太		0	0	0	0	0
製材	米マツ・米ツガ等 マツ・モミ・トウヒ	0 10	0 10	0 10	0 8	0 4.8
合板	熱帯木材14種	20	20	17～20	15～20	8.5～10
	その他熱帯木材	20	20	17～20	10～15	6
	その他広葉樹	20	20	17～20	10～15	6
	針葉樹	20	15	15	10～15	6
PB(OSB含む)注		15～20	15	10～12	8～10	5～7.9
集成材		20	20	20	15	6

注: パーティクルボード(PB)の1987年以前の関税率は、HS4418(再生木材)を集計。

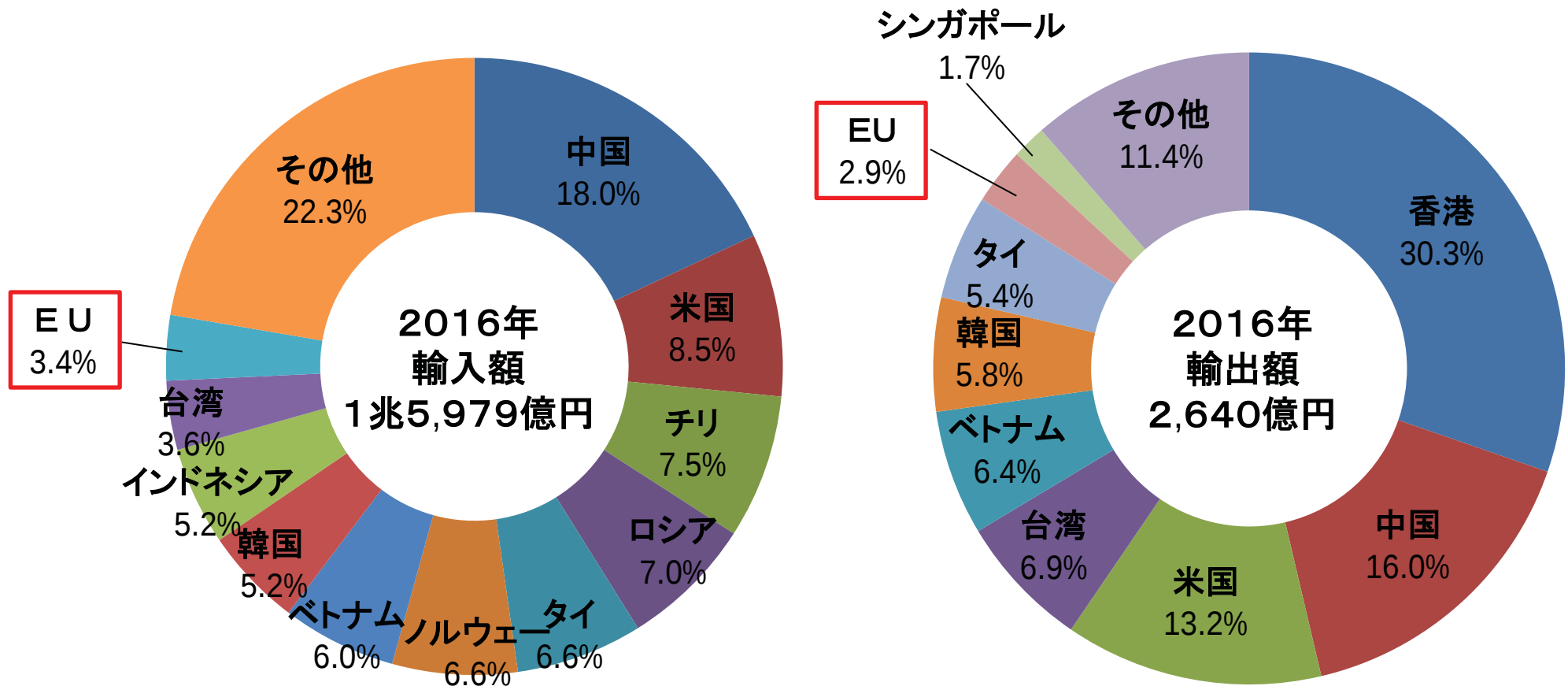
現在の我が国の林産物関税

主な品目	関税率（％）
丸 太(桐を除く)	無税
チップ	無税
製 材(S P F※)	4. 8
製 材（ベイマツ、ベイツガ）	無税
製 材（カラマツ等）	6. 0
パーティクルボード（O S B含む）	5. 0～6. 0
合 板（熱帯木材）	6. 0～10. 0
合 板（広葉樹、針葉樹）	6. 0
集成材	6. 0
構造用集成材	3. 9
直交集成板（C L T）	3. 9
木製家具	無税
紙	無税

※：トウヒ(Spruce)、マツ(Pine)、モミ(Fir)類。主なものは欧州及び北米のパイン・スプルース、NZ・チリのラジアータパイン、北洋のエゾマツ・アカマツ等。なお、ベイマツは含まれない。

我が国の水産物輸出入額(国・地域別割合)

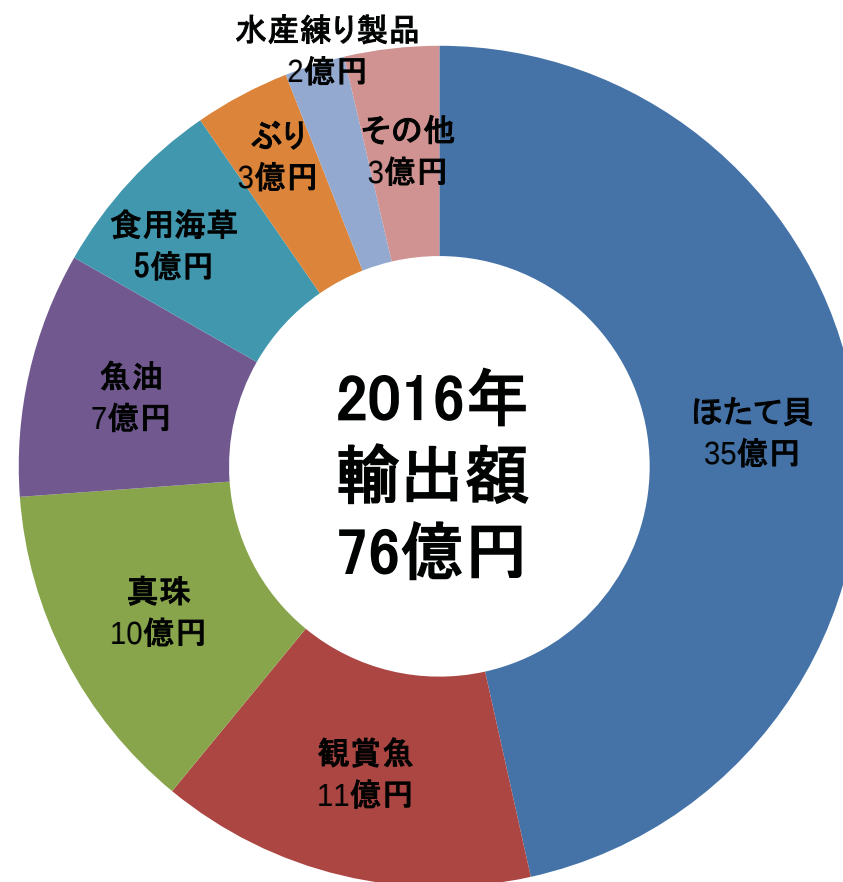
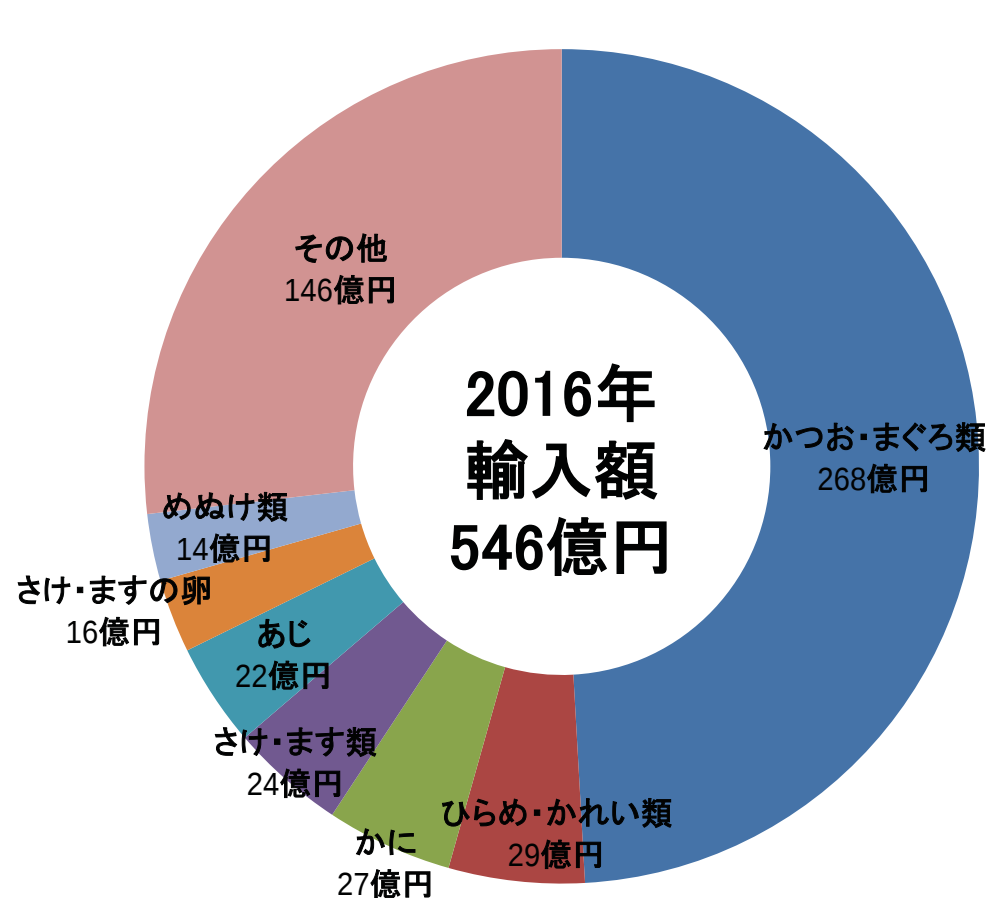
- ・ EUからの水産物の輸入は全体の3.4%(546億円)、EUへの輸出は全体の2.9%(76億円)。



出典:財務省「貿易統計」

品目別輸出入額(対EU)

- ・ 我が国はEUから、かつお・まぐろ類、ひらめ・かれい類等を輸入。
- ・ 我が国はEUへ、ほたて貝、観賞魚、真珠等を輸出。



出典:財務省「貿易統計」

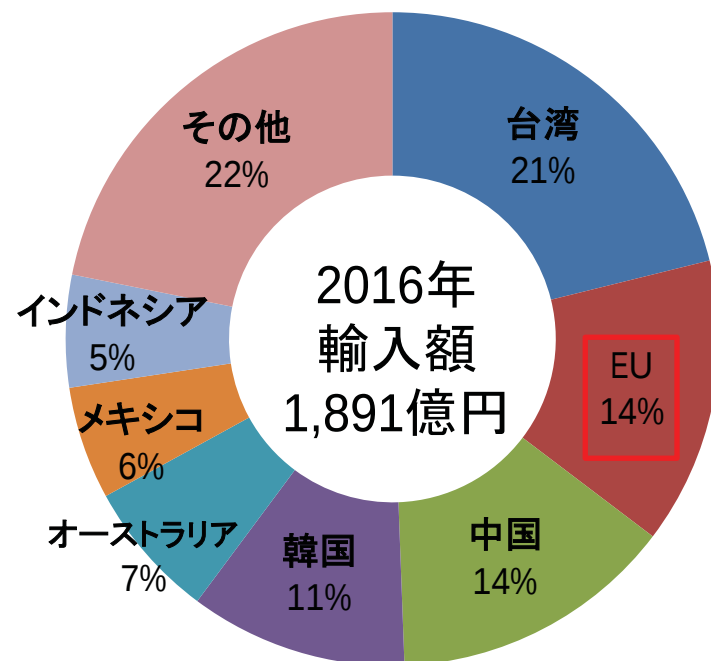
品目	関税率	全世界からの 輸入額 (百万円)	EU加盟国からの 輸入額 (百万円)	全世界からの 輸入額に 占める割合(%)	EU加盟国輸入額上位3カ国 (百万円)					
					1位		2位		3位	
あじ	10%	4,127	2,184	53	オランダ	750	英国	615	アイルランド	562
さば	7～10%	15,529	668	4	アイルランド	583	英国	74	デンマーク	11
まいわし	10%	32	—	—	—	—	—	—	—	—
ほたてがい	10%	341	—	—	—	—	—	—	—	—
まだら	6～10%	7,414	18	0.2	ポルトガル	16	スペイン	1	英国	0.9
するめいか、あかいが、 やしいが	3.5～5%	38,702	7	0.02	スペイン	7	—	—	—	—
かつお・まぐろ類	3.5%	189,115	26,835	14	マルタ	13,163	スペイン	7,256	クロアチア	4,359
うち くらまぐろ	3.5%	49,546	26,025	53	マルタ	13,163	スペイン	7,256	クロアチア	4,359
うち きはだまぐろ	3.5%	38,528	780	2	フランス	780	スペイン	0	—	—
さけ・ます類	3.5%	179,534	2,435	1	デンマーク	1,812	英国	528	フィンランド	95
うち 大西洋さけ	3.5%	22,076	869	4	英国	445	デンマーク	424	—	—
うち ます類	3.5%	41,581	1,566	4	デンマーク	1,388	フィンランド	95	英国	83
こんぶ	15%	2,099	7	0.4	スウェーデン	3	フランス	2	アイルランド	2
のり	1.5円/枚、 40%	4,445	—	—	—	—	—	—	—	—
わかめ	10.5%	11,106	—	—	—	—	—	—	—	—
ひじき	10.5%	5,036	—	—	—	—	—	—	—	—
うなぎ	3.5%	21,477	—	—	—	—	—	—	—	—

※輸入額は2016年実績。輸入額0(ゼロ)は輸入金額が5万円未満。—(バー)は輸入実績なし。

かつお・まぐろ類の輸入額及び国内生産

- ・ EUからのかつお・まぐろ類の輸入額は全体の14%(268億円)。
- ・ かつお・まぐろ類の国内生産額は2,430億円(2015年)。

我が国のかつお・まぐろ類輸入額
(国・地域別割合)



出典:財務省「貿易統計」

かつお・まぐろ類の国内生産額及び国内生産量の推移

(海面漁業)

単位:億円、千トン

	2012	2013	2014	2015	2016
生産額	1,950	1,802	1,775	1,990	-
生産量	523	488	456	454	386

(養殖)

単位:億円、千トン

	2012	2013	2014	2015	2016
生産額	275	293	420	441	-
生産量	10	10	15	15	13

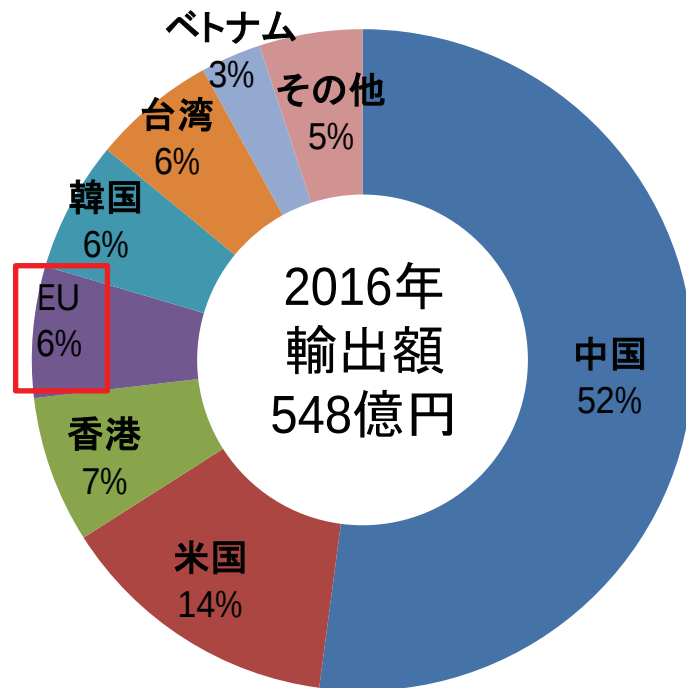
※養殖はくろまぐろの値

出典:漁業・養殖業生産統計年報

ほたてがいの輸出額及び国内生産

- ・ EUへのほたてがいの輸出額は、全体の7%(35億円)。
- ・ ほたてがいの国内生産額は1,192億円(2015年)。

我が国のほたてがい輸出額
(国・地域別割合)



出典:財務省「貿易統計」

ほたてがいの国内生産額及び国内生産量の推移

(海面漁業)

単位:億円、千トン

	2012	2013	2014	2015	2016
生産額	391	613	621	584	-
生産量	315	348	359	234	214

(養殖)

単位:億円、千トン

	2012	2013	2014	2015	2016
生産額	257	323	412	608	-
生産量	184	168	185	248	214

出典:漁業・養殖業生産統計年報